

○議長（古畑浩一君）

日程第2、一般質問を行います。

昨日に引き続き、通告順に発言を許します。

阿部裕和議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。〔13番 阿部裕和君登壇〕

○13番（阿部裕和君）

おはようございます。みらい創造クラブ、阿部裕和でございます。

発言通告書に基づき、1回目の質問をいたします。

1、子供たちの育ちと学びを支える環境整備の在り方について。

(1) 小中一貫教育学校及び義務教育学校の整備方針について。

① 市は各中学校を残し、『それぞれの中学校区に1つまたは2つの小学校の配置とし、小中一貫教育学校又は義務教育学校を設置する整備方針』に基づいた整備計画を令和8年6月を目標に示すとしています。この整備を行うことで、糸魚川市の教育の質、地域とのつながり、財政への影響をどのように見込んでいるのか伺います。

② 小中一貫教育学校や義務教育学校に期待される教育効果について、市としてどのように分析・評価しているのか。不登校や学力の課題など、改善を図ろうとしている教育課題をどのように整理しているのか伺います。

③ 小中学校期の一貫した教育を効果的に進めるためには、教職員の連携、学習内容の連続性、生活指導の一体性が不可欠と考えます。この観点から、小学校と中学校を別の場所に置く「分離式」と、同一の建物にまとめる「一体型」の教育的効果の違いを、市はどのように評価しているのか伺います。

④ 同一建物で整備する「一体型」の学校整備は、子供の安心、発達段階に応じた学習環境の連続性、教員の連携に最も資すると考えます。市はこうした観点を、整備方針の前提として位置づけているのか伺います。

(2) 幼稚園及び保育園の適正配置と保育料負担について。

① 現在、公立10園、私立10園の計20園の幼稚園及び保育園があります。今後、児童数の減少や保育需要の変化を踏まえ、市として園の数や配置をどのように見通しているのか、将来の適正規模や再編の方向性について、どのようにお考えなのか伺います。

② 市は民営化と併せて適正配置を進めるとしていますが、現段階では具体案が示されていません。園までの送迎などの保護者負担の変化や、市の財政負担について試算し『幼稚園及び保育園適正配置計画』を策定し、進めていくお考えがないか伺います。

③ 未満児保育の保育料は、家庭にとって大きな負担となっている現状があります。市として未満児保育料の無償化や独自の軽減制度について、これまで検討したことはあるのか伺います。

(3) 高校生の通学バス利用における負担改善について。

- ① 一部の路線において、平日は利用可能であるものの、土日には国道経由の便しか運行されず、通学定期ではその便に乗車できない状況が生じています。こうした運行形態の変更に伴う影響について、市は把握されておるのでしょうか。また、同様の事例が他路線でも発生していないか、併せて伺います。
- ② 減便後も通学定期が特定路線しか利用できない制度が実態に合っているとお考えか、市の評価を伺います。
- ③ 土日の国道経由の便についても通学定期券で乗車できるよう、運行事業者と協議するお考えはあるか伺います。
- ④ 高校生の通学負担増を防ぐため、市は今後どのような改善策を検討していくお考えか伺います。

2、翠ペイの普及促進及び制度設計の在り方について。

- (1) 翠ペイの加盟店舗数の推移、スーパーマーケットをはじめとした未加入店舗への働きかけの状況を伺います。
- (2) 翠ペイの利用者数について、9月末時点、10月末時点、11月末時点の推移を伺います。
- (3) 利用者や加盟店が増えにくい要因をどのように整理し、その改善に向けた取組の進捗を伺います。
- (4) 加盟店に課している換金手数料2%について、無料化を含め見直しの考えがあるか伺います。
- (5) 翠ペイは現在、糸魚川市デジタル地域通貨振興協会が運営主体であるため、チャージの有効期限が6か月とされています。市単独で運営した場合、有効期限を設ける必要がない可能性がある点を踏まえ、今後の運営体制と有効期限の扱いについて、市の方針を伺います。
- (6) 「翠ペイ de とくとくスタンプラリー」は、1店舗につき100円、最大20店舗で2万2,500円分のポイントを付与する仕組みでした。使用金額に下限を設けなかった今回の制度設計をどのように評価しているか伺います。あわせて、同キャンペーンにおいて、1人当たりの消費額の想定額と実績額についても伺います。

以上、1回目の質問であります。よろしくお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

おはようございます。

冒頭に、少し報告をさせていただきたいと思えます。

先日、大分市長の足立市長様のほうから、今回の糸魚川市の対応についてお礼状が参りました。

また、本日、今朝、先ほど大分市長さんのほうから、ご丁寧に電話でもお礼ということでお電話をいただきましたので、皆様のほうにお知らせさせていただきたいと思えます。

それでは、改めまして阿部議員へのご質問にお答えさせていただきたいと思えます。

1番目の1点目の1つ目につきましては、校区が広がることで子供たちと地域とのつながりがより拡充され、教育の質の向上にもつながるものと考えております。

また、財政面では、校舎を維持するための光熱水費等の管理費などが大幅に削減される一方、通学距離が遠距離となるため、バス運行などの経費は増額になると見込んでおります。

2つ目につきましては、連続的かつ系統的な教育課程の実現や学校文化の長期的な育成、多様な学びの機会が増えることなどが期待され、不登校に対しても、中1ギャップの解消や相談・支援体制の強化、学力向上に対しても、個別最適化された指導の実現や教員の連携による授業改善などが図られるものと捉えております。

3つ目につきましては、「一体型」には、小中合同授業や異年齢活動などの豊かな学習機会が創出しやすいこと、地域との関わりを拠点化しやすいこと、施設の機能共有や有効活用、管理運営の効率化などへの効果があります。また、小中学校を別に置く「分離型」には、感染症などが発生した際には影響範囲が限定されやすいこと、小学校らしさ、中学校らしさという雰囲気維持できる等の効果があると捉えております。

4つ目につきましては、今後の児童生徒数の推移を見ながら、どのような環境整備をすればよいか、ご指摘の観点も含めて、今後、検討してまいります。

2点目の1つ目と2つ目につきましては、10年後の園児数を見据え、子供の発達段階に応じて質の高い教育保育を持続的に提供できるよう、7月に公立園民営化及び適正配置ガイドラインを策定したところであります。

民営化については、おおむね100人以上の園を対象とし、適正配置については、現在の中学校区単位を基準に20人を下回る園の統廃合や1園当たり60人の園児数を目指す等の方向性を示しており、保護者や地域の要望等に応えながら進めてまいります。

3つ目につきましては、子育て支援の充実を図る点で有効な施策と考えておりますが、将来的にも大きな財政負担を生じることから、軽減支援も含めて今のところ実施の予定はありません。

3点目の1つ目については、青海地域の土・日、祝日の状況については、承知しております。

その他の路線については、運行事業者にも確認いたしました。そういった意見は寄せられていないとお聞きしております。

2つ目につきましては、通学定期は交通事業者が利用区間ごとに販売しているものであり、全ての利用者の実態に合わせることは難しいものと考えております。

3つ目につきましては、運転士の手配やダイヤ調整などで対応できないか、運行事業者と協議してまいります。

4点目につきましては、今年度から通学定期券の購入費補助金制度を設け、対応しております。

2番目の1点目につきましては、186店舗からスタートし、11月末時点では257店舗となっており、振興協会の構成団体から未加入店舗への働きかけを行っております。

2点目につきましては、9月末時点で3,515人、10月末時点で3,724人、11月末時点で4,239人です。

3点目につきましては、利用者数については増加しており、行政ポイントの普及や地域内流通額の増加に伴い、加盟店も増えるものと捉えております。

4点目につきましては、見直しは考えておりません。

5点目につきましては、個人の金融資産を扱うことや事務負担など様々な課題があるため、現時点では、発行主体の変更は考えておりません。

6 点目につきましては、スタンプラリーをきっかけに翠ペイ利用者の増加、加盟店への回遊促進と新たな集客の機会がつけられたものと評価をしております。

また、1 人当たりの消費額は想定しておりませんが、実績は9,863円となっております。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては所管の部・課長からの答弁もごさいますので、よろしくお願いたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

それでは、入れ替えて、翠ペイのほうからお聞きします。

先日、会派として、群馬県の桐生市のデジタル地域通貨、桐ペイの視察を行ってまいりました。そこでの学びとこれまでの一般質問での議論の積み重ねを踏まえて、再質問をいたします。

まず、加盟店拡大の取組について、プレミアム商品券や地域共通商品券が利用できた店舗でも翠ペイを利用できるよう求めてまいりました。市は、これまで各種キャンペーンを通じて、加盟店増加に取り組んでいくという答弁でしたが、具体的にどういった施策を展開し、加盟店の増加につながったのか、その取組の効果を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

おはようございます。

加盟店については、先ほど市長答弁にもございましたが、振興協会の会員となっております糸魚川商工会議所、能生商工会、青海町商工会、糸魚川信用組合、そして糸魚川市ということになりますが、それぞれで各地域の店舗等は当たっていただいております。大型店につきましては、市のほうで直接お話しさせていただいてもおりますが、それによって加盟した店舗もあれば、いまだに加盟していただけない店舗もございます。

今、我々の方策としましては、市内流通額をまず増やして、それで加盟店を増やしていく。利用者との市内流通額を増やして、加盟店を増やすという取組で進めておりますので、各種キャンペーンを見て、今回の例えばスタンプラリーのような効果を見てですね、新たに加入していただける店舗を増やしてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

働きかけについてなんですけど、どういった働きかけをやられたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

1例でございますが、ある大型店のスーパーの副社長に市長が直接お願いをしたというケースもございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

各地区の地域の振興協会の中の商工会というふうにおっしゃったんですけれども、桐生市のほうでは、市の担当、桐生市は、まずもって市が単独で運営しております。市の職員が最低でも一軒一軒電話をしたというふうに聞いてます。やっぱり話を聞くと、紙1枚送るとかという取組ではやっぱり駄目だというふうにおっしゃってましたが、その点についてどう思うか。

また、今ほど市長が副社長に会ったって話もしましたが、大体のお店はどういう働きかけをやっているのか、直接お願いに行っているケースがほとんどなのか、A4の紙1枚でお願いしているのか、どういった状況を伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

桐生市の例については、大変参考になります。我々、商工会、商工会議所につきましては、会員店舗に直接出向いてお話をしているというふうに向っておりますが、トータル、協会からは、やはり加盟店の申込案内書ということで文書を送って実施しているということで、桐生市に比べてはエネルギーが不足しているかというふうに思っております。

実際にどういった加盟のことをしているかという部分になりますが、一連のc h i i c a、トラストバンクが作っているc h i i c aというアプリで翠ペイということをやっているという制度の説明と、加盟店の手数料がこういった形になるという一連の流れの説明であって、それ以上の部分については少し直接的には把握はできておりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

子育て、今、出産であつたりに際しまして、翠ペイのプレゼントというのもやってると思うんですけど、その取組自体はいいと思うんですけど、使うところがやっぱり子育てに資する、子育て応援のお店を使いたいというふうにおっしゃってる方が多いんですけど、そういった取組はいかがですか。そのところに直接お願いに行くというのはされているのでしょうか。行ってなければ、市長、ぜひお願いに行っていたきたいんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

具体的な子育て用品を販売しているお店については、商工観光課としては令和7年度になってからは1回も訪れてはおりません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

今、阿部議員がおっしゃったように、私もトップセールスマンとして動きたいと思いますので、ご要望があれば、何なりとお申し付けしていただきたいと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

じゃ、要望いたします。ぜひよろしくお願いします。

あと1点、その加盟店の話なんですけど、市役所の売店が加盟店に入っていないのは何でなんですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

こちらについては、私は直接加盟を促した経験がございますが、労働組合としてのですね、職員組合としての手数料の負担が厳しいということで、お断りされております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ちょっと手数料については、後ほど聞かせてください。

次に、利用者増なんですけれども、今まで紙のプレミアム商品券を利用してきた世代が、翠ペイに移行できているかどうか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

翠ペイの会員の年齢別の属性になりますが、一番多いのは50代で約850名、続いて60代で約650名、続いて40代で610名、続いて70代、20代というふうになっておりますので、カード会員も含めて、全体的には移行はできているものというふうに捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

スタンプラリーの予算が終わるよという通知をして、その日のうちにもう終了したというところ、平日でしたかね、終わってるところを見ると、主婦の方がいっぱい走り回っていただいたのかなというふうに想像をしていたんですけども。

桐生市のほうでは、導入から高齢者層に向けて説明会、個別相談会を徹底して行っていたそうです。紙の商品券を利用した世代の移行がうまく進んだというふうにおっしゃってました。今後、どういった、若年層に対してもなんですけど、今後どのような取組を展開されるか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

経済対策の分野で申し上げますと、今年度、住宅リフォームで翠ペイを使って補助金の給付ということが、取組として行われました。事業者の方から評価がよかったというふうに私、捉えておまして、そういった部分でカードの会員さんがかなり増えております。

今回、スタンプラリーにつきましては、先日来お話しさせていただくように、この期間にこれまでにない増加者数というかを記録しておりますので、こういった部分を広げていきまして、まず、利用者を増やしていく取組を進めてまいりたいと考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

若年層の取組なんですけど、昨年9月定例会において中高生を巻き込んだ取組として、翠ペイの決済時に流れる音声メッセージを市内の高校生または中学生に録音してもらうという案を私、提案いたしました。その際、担当課からは、振興協会を通じて検討したいとの答弁をいただきましたが、この取組は、私が考えるに若い世代が主体的に取り組む、関わるきっかけというふうになるだけじゃなくて、その家族や友人が利用を始める動機にもなるというふうに思っております。前回の答弁から1年たちましたが、この案についてどのような検討が行われたか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

令和6年度末まで、横澤夏子さんの音声を決済音として利用させていただいておりました。その後、令和7年度に入って、今ご指摘のような阿部議員の提案について、具体的な検討には至っておりませんが、大変いいアイデアだというふうに思いますので、今後、この決済音の、何といたしますか、地元に基づいて皆さんがより親しみやすくなるような利用の仕方について、また研究させてい

たきます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

前回の答弁も非常にいいアイデアで、すぐ振興協会と協議したいというふうにおっしゃってたんですけど、今の答弁ですと、また1年後になるのかなと思うんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

そのようなことのないように努めてまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

桐生市の桐ペイなんですけれども、利用者間のポイント送金の機能がございます。翠ペイは、今のところ送金機能ないんですけれども、私がお聞きしてるには、子供に対して親が送りたいというのも幾つか聞いているんですけれども、この利用者間の送金機能の導入について、どうお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

機能については、承知しております。また、事業者の登録で、事業者間のB to Bのやり取り等も可能ということは聞いております。協会のほうで詳細の運用については検討してまいりたいと思いますが、使える機能であれば前向きに、設定について検討してまいります。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ぜひともよろしく願いいたします。

換金の手数料なんですけれども、桐生市のほうでは3年運用しているんですけれども、一度も換金手数料を取ったことがないというふうにおっしゃってございました。今ほどの市長答弁ですと、検討はしないというか、手数料は今後も取っていくというようなご答弁だったんですけれども、先ほど課長のほうからもありましたように、市の売店、市役所に設置している売店ですら手数料についてはしんどいというお答えがあって、加盟店に加盟してないというのは、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

市の売店が加盟していないということは非常に残念でありますし、宮島議員の質問にもありましたように、市の施設で翠ペイに加盟しているところに、フォームに画像が入っていないという、本当に残念に思っております。

無料化について、組合については引き続き働きかけをしてみたいと思いますし、2%については、市長答弁したように、今後も2%は適用してみたいと考えております。そちらの背景には、やはりこの翠ペイは、市民も事業者も行政も関係機関も、地域全体でこの市外へ流出する部分を少なくしていき、地元消費を促進するために取り組んでいるものであると考えておりますので、翠ペイを運営する地域全体、地域経済のコミュニティの皆さん一員ということで、事業者からも運営費の一部を負担いただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

この手数料がかかることを理由に、お店側が、この金額以上使ってください。使わないのであれば、翠ペイの利用はお断りですってお店も市内にあります。このことについてはどうお考えなのか。

また、小規模店ほど、それこそ市の売店のような小規模店ほど手数料というのがかなりの負担になってくるんです。そこについてはいかがお考えでしょうか。また改めて、その無償化について伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

翠ペイの活用の中で、そういった利用額に制限をかけて営業されているという店舗があるということは承知しておりませんでした。実際には、ほかの例で、クレジット決済ですとか、QRコード決済、バーコード決済を、利用はできるんですが、その札をですね、お客様が来られると見えないうようにするといううわさは聞いたことはございます。ただ、本当に実際そういった運用されるかどうかはやはり、事業者様の判断になるかと思えます。

ご指摘の小規模店についても、決済額が少なく、売上げが少ない中にパーセンテージでその部分が取られるという、パーセンテージについては大規模店も小規模店も変わらないものでございますので、そこについてはご理解をいただいて、引き続き加盟をしていただきたいと思いますと思っております。

この電子決済、デジタル地域通貨ということでデジタル化の流れの一環でも取り組んでまいりましたので、そういった部分で今回のこの2%の部分について負担をいただきながら、地域内でよりよい運営ができるようにつなげてまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

先ほどの市長答弁、ちょっと私、逃しちゃったんですけれども、有効期限の撤廃については、どのようにお考えなんでしょうか、市として。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

おはようございます。

お答えさせていただきます。

有効期限の撤廃につきましては、有効期限を撤廃できるのは、やはり事業主体が市にならなければ撤廃できません。メリットといたしましては、独自に有効期限を設定できると。なくすことも可能なんです、やはり市が実施主体となる課題というものもたくさんございます。やはり継続的な金融システムの運用や、また、単式簿記から複式簿記への職員の視点が必要など、また行政側のノウハウも不足しております。

また、職員体制につきましては、先ほどの桐生市さんも視察されたというふうにお聞きしておりますが、桐生市さんでも専門の職員の方が2名と、また会計年度職員の方が1名おられるというふう聞いております。またほかの市でも6名体制でやっていたり、また第三セクターに委託したり、協議会で運営していると。様々な人的リソースが必要だというふう聞いておりますし、また、名称等を変えらるとなると、やはり経費が必要になっております。カードを変えたり、名称を変えたり、そういったこともありますので、今現在は、先ほどの市長答弁のとおり発行主体の変更は考えておらず、今のところ有効期限につきましては、6か月ということでご承知いただきたいと思っております。

○議長（古畑浩一君）

ちょっと議長のほうからお尋ねしますが、今の企画定住課長はどういう立場で答弁されたんですかね。この翠ペイの担当は、商工観光課と企画定住課で併せてやってるんですか。そこを最初に説明してからやってください。ちょっと不自然でしたので、そこをもう一回だけお願いいたします。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

失礼いたしました。

翠ペイの運用につきましては、スタート時は企画定住課のほうでさせていただいておまして、振興協会との協議につきましては企画定住課及び商工観光課と一緒に取り組ませていただいております。

既存の今までの6か月の有効期限等の課題につきましては、今現在も企画定住課のほうで取り扱っておりますので、私のほうからお答えさせていただきました。

○議長（古畑浩一君）

それですっきりしたね。

それでは、行きましょう。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

有効期限の撤廃については、以前は市としても有効期限撤廃に向けて全力を尽くすという答弁があったので、今ほどのご質問になりました。今のお話聞くと、もう今まではその国が求める S u i c a 的なハードルをクリアしていくために全力を尽くすって話だったんですけど、今まで関係者の方からいろいろ話を聞くと、それは無理なんだろうなというのを実感していましたので、市として単独でやる覚悟があるのか、それとも振興協会で進めていくのか、どちらなのかというところをお聞きしたかったです。

スタンプラリーについて伺います。

まずもって、このキャンペーンの目的は何だったのか、それが達成されたのか。

また、このスタンプラリーの予算が幾らだったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

スタンプラリーの目的につきましては、まずこのスタンプラリーを機に新規翠ペイ利用者を増加させること、利用者が新たな店舗を発見して回遊すること、お店にとっては新たなお客様を獲得すること、スタンプラリーが話題になりまして、それらを聞きつけた新規加盟店が増えるという部分を狙ったものであります。

予算につきましては、当初10店舗達成者が1,100人出るという想定で1,210万円を算出しております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

スタンプラリーは話題になったと思います。

今回のキャンペーンで20店舗達成者は何名だったのか。そのうち、その平均の総決済額というのは幾らだったのか。

また、その中でも達成者の中でも最も少額だった総決済額の方は幾らだったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

20店舗達成者が446人で、平均額については1万1,901円でございます。
最低の方は、1,403円でありました。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

最低の方が1,400円台ということで。

先日、宮島議員での質問の答弁で、個別の利用額の最大が22万で、最小が1円というふうに答弁ありましたが、それぞれの決済について、翠ペイのみで支払われたものなのか、それとも現金との併用だったのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

現金併用であったということで捉えておりますが、その部分のちょっと統計データについては把握できておりませんが、アプリ会員のみ1円分を翠ペイで、残りを現金でということができます。

カードはそういったことができないはずなので、アプリの方でそういったことがあったと思います。

22万円については、最大チャージ額が10万円というのを超えておりますので、これまでに積み重ねたポイント、またはギフトカード等でその部分を積み上げられてお使いになったというふう

に捉えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

そこを確認したかったです。翠ペイは10万円までのチャージの上限というのがあって、22万という数字が出てきたんで、どういう決済だったんだろうというのと、この1円なんですけど、この1円について、翠ペイだけで1円を払ったというふうに今ご説明あったと思うんですけど、1円の商品を買われたのか、それとも現金併用で、例えば1,000円のを999円現金で、1円を翠ペイで払ったのかというのは分からないんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

翠ペイ側の集計では、その利用者様が翠ペイで幾ら払ったかという部分でしか把握できておりませんので、実際にどういった使われ方をしたかは不明でございます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

この1円の決済、何店舗であったのか、何件あったか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

1円の決済数については、現在、資料がございません。申し訳ございません。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

この1円の決済について、市はどう受け止めておりますか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

今回のスタンプラリーのスタンプの収集だけのために、過度な低額の、少額利用が繰り返されたという方がいらっしゃるということは事実でお聞きしております。こちらについては、制度で制限をできなかった、我々が制限をかけなかったという部分について、今回の見直し点ではあるというふうに考えておりますし、そういった使い方を少し想定できなかったという部分で残念であります。

ご指摘のように、少額使用が制度的に可能であったため、お店の方からは非常にそういうのを繰り返されて、レジが煩雑だったという声も聞いておりますが、一方では、少額であっても新しいお客様がお店に足を運んでくれるという部分で、スタンプラリーの楽しさを楽しんでいただいているということでご意見もいただいております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ちょっと話がすり替わってます。例えば1万円のものを9,999円現金で払って、1円で決済してれば、お店はうれしいはずです。私が今お聞きしてるのは、この1円がどうだったかというのを、今後、何ていうんでしょう、これ疑問が残る使い方だと思っていて、この不正の疑いがある決済があったんじゃないかというふうにも考えるんですけど、この利用について追っていくつもりはないですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

不正の疑いがあるという部分がちょっと少し今私が把握できないんですが、マネーをチャージし

た部分と、それに対して現金をプラスする部分でお支払いをしているわけでありますので、お店に対するお支払いとしては同じかと思います。1円と、例えば9,999円、9,999円と1円という部分については、もらう側のお店側からは同じかというふうに思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

それで結構なんですけど、要は1円のものを買われて、純粋に1円のものを買われた可能性もあるんじゃないかなというふうに思っていて、要は、何ていうんでしょう、QRコードを取れば、決済できるわけですね、勝手にこっち側で、利用者側で。そういうことが行われたんじゃないか。要は、お店で買物してないけど、1円の決済があったんじゃないかなという疑念が残ると、要は、何ていうんでしょう、1円の決済があったものが、それが幾らだったかというのを、それが現金併用して幾らで払ったのかというのも調べるべきじゃないかというふうに思っているんですけど、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

ちょっと今、私そのご指摘について、すぐここで理解できませんが、持ち帰らせていただいて、もう一度検討させていただきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

なかなか私もちょっと今説明が上手にできてないような感じがするんですけど、1円という決済があったというのが、現金併用であったかどうかは今定かじゃないというところで、1円という商品を見たことがないんで、果たして本当に現金併用で1円だけで支払う人がおられるのかというふうに思ってます。そういう点も含めて、その1円の決済が、本当は幾らお支払いして、翠ペイで1円の支払いをしているのかというところを調べていただきたいというふうに申しました。

改めて、いかがですか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

協会側のデータで、把握が可能であれば調査をしてみたいと思います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

分かりました。また後ほど担当課で、ちょっとお話しさせていただければと思います。

今回のキャンペーンなんですけれども、課長おっしゃるように、決済について下限を設けなかったということで、10円や20円の購入が多発した。今ほど1,400円という数字も出ましたが、2,000円使わずに20店舗達成したという方が複数おられて、2万2,500円分のポイントを得たよ、うれしいというようなお話いただいているんですけど。こうしたことは、消費拡大につながる利用であったというふうにも受け止められるんですが、こういった利用が大量発生したことについては、どうお考えで、これを、スタンプラリーは評価しているというようなお話あったんですけど、この点も踏まえていかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

繰り返しになりますが、スタンプラリーは、やはり今回の利用が増えるというのが最大の成果だと思っております。

一方で、先ほど来ありますように、低額・少額利用だけで繰り返されたというところに制限ができなかったという部分は、今後、見直しをかける必要があると思っております。お店のほうからの声も、繰り返しになりますが、新たなお客さんが今回スタンプの楽しさを求めて来ていただいたというありがたいお声もいただいておりますので、そういった部分も工夫しながら、また次回の取組に向けて検討してまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

私のところにもお店の方からは、もう勘弁してくれというようなお声もいただいておりますので、これこそ振興協会、皆さんおられるので、皆さんと協議の中で、いい制度をつくっていただければと思います。

繰り返しになるんですけど、お店側からしたら、その少額利用に対しての不満と換金手数料の負担が重なって、今後、加盟店から離れようかなというようなお話もいただいているんですけど、そういった店舗が今後、複数出てくる可能性というのについてはいかがお考えでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

山崎商工観光課長。〔商工観光課長 山崎和俊君登壇〕

○商工観光課長（山崎和俊君）

翠ペイを始めて以来、一応増加傾向にありましたが、中には廃業等で離脱された方が2店舗、これまではございました。今回、先ほど来の2%の手数料の問題ですとか、このスタンプラリーの煩雑さを基に1回離れられるという店舗が出てくるということも想定されますが、引き続き、この翠ペイの加盟店への勧誘については続けてまいりたいと思っておりますので、ご理解をいただけるように努

めてまいりたいと考えます。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今回、市民1人当たり1万何ぼというような付与、1,000人当たりでしたっけ、1,100というのをお話あったんですけど、同じ、今回私、市民1人当たり2万円ポイント付与する覚悟があるのならという前提でお話するんですけど、その気持ちがあるのであれば、同じ財源を使う方法として、4万円使うと2万円分のポイントキャッシュバックみたいな、いわゆる50%キャッシュバックという仕組みをつくと、確実にお金が動きます。予算の3倍、要は2万円投資して、6万円動くというような形になるんで、そうすると、商店街のお店のほうも納得されると思いますし、地元消費の促進というのと、店舗支援というのにもつながると思いますので、またご検討いただきたいと思います。

また、先ほど来、スタンプラリーは新規利用者というようなお話あったんですけども、桐生市のほうでは、全市民に対して、5,000円の桐ペイカードを2回配付しております。これにより、桐ペイの利用者が、市民の中で桐ペイを利用している方が約45%ぐらいいるそうです。こういった方法もありますので、今回スタンプラリー、アプリの方しか多分できなかったというふうに思っておるので、全市民に対して、まず、翠ペイを使ってくださいというような取組では効果的かなというふうにも思います。

これを踏まえてなんですけれども、久保田市長に伺います。

これまでの質問に対する答弁も踏まえて、この現在までの翠ペイの運用について、市長としてはどのように評価されているのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

担当課が一生懸命やって、いろんな協議会を通じて翠ペイの利用促進も担っているという部分については評価をしておりますけども、いわゆる翠ペイが今後、継続していく上でのボトルネックというのがどういうところにあるのかという部分は、やっぱり今の課長の答弁にもありましたように、検証する必要があると思います。

また、事業主体の件につきましても、できない理由のみで対応するんじゃなくて、どうしたらそれを改善できるのかという部分は、協議会等々とも協議をしなきゃいけない問題ですので、こちら側の一方的な考えで取組を変更するというわけにきませんので、その辺のところを対応させていただきたいと思います。

まず、翠ペイの運用と市民サービスの在り方について、両方やっぱり考えながら進めていく必要があるのではないかと、一応評価をしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

私も翠ペイについては、デジタル地域通貨を進めていただきたいと思いますと思って今まで質問してきましたし、今もしっかり地域の経済が回るようにと思って今回の質問しておりますので、よろしくをお願いします。

最後に伺いますが、国の3,000円相当の食料支援、いわゆるおこめ券についてなんですけど、翠ペイで配ることはできるのか、また、そういったお考えがあるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

大西企画定住課長。〔企画定住課長 大西 学君登壇〕

○企画定住課長（大西 学君）

お答えいたします。

昨日の答弁の中でも、今現在は、交付金の交付につきましてはどのようなものがあるかというのは、庁内で検討中でございます。その中で、今ほど議員のほうからご提言ございます翠ペイにつきましても検討の中に入っておりますが、やはり翠ペイを利用されている方は約4,000人強ですかね、その程度でありますので、普及率としましては、全体でいいますと10%程度かなというふうに思っております。改めて、交付するために翠ペイのカードを配ったり、アプリを導入、そういったことをやる時間的な余裕もないこともありますし、やはり時機を逸せずタイムリーに配付するためには、翠ペイというのは若干、今回は難しいのではないかなというふうに思っております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございました。

次に、1番のほうに移ります。

子供たちの育ちと学びを支える環境整備というところなんですけど、小中一貫教育学校と義務教育学校、それぞれどこがどう違うのか、また、従来の小学校、中学校との違いについても伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

小川こども教育課長。〔こども教育課長 小川豊雄君登壇〕

○こども教育課長（小川豊雄君）

お答えいたします。

義務教育学校と小中一貫教育学校の違いでございますが、どちらも小学校1年生から中学校3年生が学ぶということには変わりはないんですけれども、義務教育学校のほうは1年生から中学校

3年生まで、小学校1年生から中学校3年生まで一つの学校として学ぶという形になっております。

対しまして、一貫教育学校のほうは、小学校と中学校を存続したまま、その小中学校の連携の上で教育を行う。もう少し具体的に言うと、教育目標とか目指す方向とかを小中学校で共有した上で教育を行っていくという形の学校になっております。

それで、義務教育学校は、おおむね一体型というのが多いかと思うんですけども、一貫教育学校の場合は、学校の規模により小・中を分離した形で一貫教育学校ということもできるというふうに考えておるところでございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

市長懇談会なんですけど、各地区で市長懇談会やられて、私も結構な数のところに行って、各地区の課題というの肌で感じてきたところなんですけれども、その中で、市長のほうから小中一貫教育学校、また義務教育学校についても整備していくというようなお話がある中で、令和11年に整備するという趣旨のご発言があったと記憶しております。来年6月には整備方針を示す予定とされていて、その中で詳細なことが処理されてくるんだろうと思うんですけども、どの中学校区から進めていくというようなお考えがあるのか。

また、地域との協議はいつから行っていくのか。

また、その令和11年という発言についても、お考えあれば、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

まず、教育委員会とすり合わせの段階の形で、私自身が、今回、地区懇談会等で、めどとしての発言であったと思います。それについては、改めて教育委員会と、この検討を進めていく上での正確な年月について、今後打ち出していければと思っていますので、現時点でのめどについては、私自身、11年度をめどにして、対応していただきたいという思いの中での発言というふうにご理解をしていただければと思います。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

利根川議員のほうからも質問の中で、太田市の話があったかと思えます。

先月、会派で太田市の義務教育学校、北の杜学園を視察してまいりました。そこの校長先生から

のお言葉で一番印象に残っているのが、一つの校舎で学んで、一つの組織で運営して行って、そして1人の校長が全体を見通すということが、一貫した教育指導の土台になるというふうなご説明がありました。

また、義務教育学校に関しましては、先ほど9年間の義務教育をステージ制の導入によって中1ギャップを解消したり、また、9年間を通して生徒を見れるので、様々な変化に対して早期に対応できるメリットがある。また学習のつまずき等にも一体的に対応できるという効果があるというふうに説明がありました。その中でも小中一貫教育学校では、どうしても分離されてしまって、義務教育学校の整備だからこそ、それらの課題解決が実現できるというふうなお話がありました。

このことを踏まえて伺いますが、糸魚川市として一貫校化をするに当たって、最も改善したい教育課題というのは何なのか。

また、その上で、その課題に対してどの程度改善を見込むのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

霧本教育長。〔教育長 霧本修一君登壇〕

○教育長（霧本修一君）

説明させていただきます。

9年間を見通した子供たちの育ちや学びを一体的に推進していくのが、義務教育学校の大きな特色であります。今まで糸魚川市が取り組んできました子ども一貫教育方針に基づく基本計画による具体的な各学校の取組、その中では、連携というふうな部分、小中の連携という部分のところが大きなウエートを占めていました。

ところが、義務教育学校になりますというと、連携よりももう一体的になりますので、それこそ教育課程を1年生から中3まで、同じ教育課程の中でもって、子供たちが育てられるということになります。

今まで糸魚川市が取り組んできた子ども一貫教育方針基本計画をさらに充実させるためには、やはり同じ教育課程の下でもって、子供たちの育ちや学びを連続性、系統性、そしていろんなその可能性を伸ばせる環境づくりが、今最も求められているというふうには考えています。その基本的な方向で、これから学校の整備、それから環境整備というふうな部分のところの議論を細かく詰めていくという段階ではないかと思えます。

そんな意味合いに立ちますというと、学校をつくるのが目的ではありません。あくまでも手段です。主たる目的は、やっぱり子供たちの学びや育ちをどんなふうな環境の中でもって子供たちを育むのかということが、それが大きな主たる目的です。その手段の一つに義務教育学校があったり、あるいは小中一貫校があったり、今現在進めている学校制度、糸魚川市の取組みたいなものもあるわけです。どんなふうなものを皆さんと一緒に考えながら選択していくか、そしてつくり上げていくかというふうな部分のところが、これから求められていく糸魚川市の教育行政の大きな課題であると私は捉えています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ありがとうございます。

（2）に移ります。

先ほど、お話ありましたガイドラインを私も確認いたしました。このガイドラインを踏まえて、適正配置について再質問を行います。

ガイドラインでは、中学校区を一つの区域として10年後を見据えた適正配置を進めるとされています。また、おおむね3年以内に園児数が20人を下回る見込みのある園を統廃合の対象とすると記されていますが、この基準に照らすと、現時点で該当する園は幾つあると見込んでいるのか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

ガイドラインで20人を下回る園についての今後の統廃合の検討といったところをお示ししておりますけれども、現状で、市内には20人を下回っている園が既に複数ございます。また、20人台の園といったところも複数ございますので、今後そういったところについて検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

現時点で民営化を進める、次は、やまのいだというふうにあるんですけども、市長は、大野地区の懇談会で、青海地区の幼稚園についても民営化を進めるというふうにご発言をされています。ガイドラインにも、青海地区の3園の統廃合を検討し、新園舎を整備する場合は、民営化も併せて検討するというふうに記されています。

また、市長のご発言とこのガイドラインのことを踏まえますと、3園統合して、新園舎での民営化を想定しているというふうにも受け取れるんですけども、青海地区の今後の方針をどのように考えているか、青海地区のみ公立園で成り立っている地区ですので、伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○副議長（保坂 悟君）

室橋こども課長。〔こども課長 室橋淳次君登壇〕

○こども課長（室橋淳次君）

お答えいたします。

青海地域の園の状況につきましては、今ほど議員が述べられたとおり、ガイドラインのほうにもお示しさせていただいております。青海地域につきましては、現在ある3園、幼稚園2つと未満児

保育の保育園が1つということで3園、いずれも市が運営をしております。そういったところから、市のほうで主体的に考えて、取組は進めていきたいというふうに思っております。

民営化ということに関しましては、やはり園児数が一定程度確保できなければ、なかなか民営化というのは難しいというふうに考えておりますので、今後、青海地域の3園が統合できた場合に、園児数が一定程度確保できるのであれば、民営化といったところも検討していけるという趣旨でございます。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

ぜひとも、地域の方や、また親ですね、親が一番、以前もお話ししたと思うんですけど、通ってる園児の親たちは、ぜひとも統合をというようなお話をされてるんですけども、それを地域はどう思っているのかというのかなり重要なことだと思いますので、一体的に進めていただければと思いますので、よろしくをお願いします。

次に、バス利用に関してなんですけど、担当課の内山課長にご相談したところ、小・中学生には公共交通に慣れてもらうという目的で、おでかけフリーパスが発行されているというふうにありましたが、同じ公共交通を日常的に利用する高校生には、大きな負担が残ったままであります。現在の高校生の通学負担の水準を、市はどのように評価しているのか。

また、小・中学生と高校生への支援の違いというのをどのような考え方で整理しているか伺います。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

内山都市政策課長。〔都市政策課長 内山俊洋君登壇〕

○都市政策課長（内山俊洋君）

お答えいたします。

まず、小・中学生と高校生の違いというところでございますけども、市が責任を担う義務教育の範疇か、そうでないかという違いはあろうかと思えます。

こどもフリーパスに関しましては、通学定期で定期を支給されている子供と距離が近い子供については、支給されない子供の違いがございます。こういったものの違いを埋めるために、先ほどお話のあった、慣れてもらうという目的のほかにフリーパスを設けてですね、バスになれ親しんでもらうといった狙いで設置をしているものではございます。

高校生については、そういう義務教育かそうじゃないかの違いはありますけども、高校生についても大事な市民でございますので、全国的な物価高騰の中で、通学にかかる負担の軽減を図る目的で、通学定期の一部助成というのをやっているところでございます。

一方で、持続可能な公共交通を維持していくためには、交通事業者が設定する運賃を利用者から負担していただくことも必要であるというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今ほど内山課長のほうからありましたけど、補助があるというのは私も存じ上げてるんですけど、定期の値上がりした分の半額を助成してるといような制度だと思います。

今回、バスとして取り上げたんですけども、電車も含めて通学費の負担はかなりのものであるというふうに捉えています。例えばですけど市が示す居住誘導区域に住んでいながら、学校に通うのに1日1,000円以上の支出がある家庭が幾つもあるという状況です。本来、通告書の中では、保育料の軽減というところも触れているんですけども、本来、保育料や通学費といった子育てに関わる費用というのは、家庭が責任を持つべきものであるというふうに捉えています。現在、物価高が続いて、所得水準も大きく上がらないという中で、共働きが当たり前になっております。本当に育てている家庭におかれましては、本当にしんどい思いをされていて、家庭を甘やかすものではないと思うんですよ、この支援していくというのは。社会構造の変化に対応して、地域の持続性を確保するための必要な投資であるというふうに私は考えております。

久保田市長に伺いますが、今ほど課長のほうからも答弁ありましたが、このおでかけフリーパスの適用を高校生にもできないかなというふうに、試験的でも結構でございます。お考えいかがでしょうか。

また、それがかなわないのであれば、さらなる負担軽減というのを、お考えないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

久保田市長。〔市長 久保田郁夫君登壇〕

○市長（久保田郁夫君）

お答えします。

昨日ですかね、古畑議員のほうから、やっぱりこれから糸魚川の人口減少について、非常に大きな課題を示していただきました。その中で、やはり若者世代が糸魚川に残っていく上での施策展開は必要ですと。そういう中で、今、阿部議員がおっしゃられた、ここで教育を受けていく。その中で教育が、個人個人の負担が違ってくる。その不平等といいますか、そういう地理的な条件で不平等が生じる部分については、どういうふうな形で考慮していけばいいのかという部分も一つの論点になると思います。そういう中であって、通学の問題だとか、これから発生する部活動が地域展開になるという部分での足についても、やっぱり複合的な観点で、これについては取り組んでいかなければいけないと思いますので、今の通学の部分も含めて、検討事項として、また担当課と詰めていければと思っています。これも時間がかかるかもしれませんが、時間がかけないようにどうやって取り組んでいくのか、それも今度、組織再編の中でも図っていければと思っています。

以上です。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

阿部議員。

○13番（阿部裕和君）

今ほど市長からあったように、私も糸魚川で将来ずっと暮らせるという環境づくりが不可欠になってくると思います。そういった意味では、繰り返しになりますが、保育・教育、そして高校生の通学という日々の生活負担というのを軽減していくことは将来に対する確かな投資であるというふうに思っております。こうした観点を踏まえて、引き続き実効性のある支援に取り組んでいただきたいと思っております。

○13番（阿部裕和君）

はい。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（古畑浩一君）

以上で、阿部議員の質問が終わりました。

関連質問に対する時間がないと認め、これにて質疑を終了いたします。

暫時休憩いたします。

〈午前11時09分 休憩〉

〈午前11時10分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

それでは、休憩を解き、会議を再開いたします。

11時15分まで休憩といたします。

〈午前11時10分 休憩〉

〈午前11時15分 開議〉

○議長（古畑浩一君）

休憩を解き、会議を再開いたします。

次に、東野恭行議員。

〔「議長」と呼ぶ者あり〕

○議長（古畑浩一君）

東野議員。〔12番 東野恭行君登壇〕

○12番（東野恭行君）